

自主学習会紹介

総合展示物学習会

佐倉市 川口 幹雄

本学習会は、原始・古代から現代までの展示物の関連資料を読み解きながら、情報交換をし、日本の歴史に人々の暮らしを含め、幅広く学習しています。学習したことは、展示室で確認し、知り得たことを共有している楽しい会です。現在の会員は35名です。

学習会は、座間さん（世話人）の呼びかけで始まり6年目、全展示室を一巡し4月からは再び第二展示室（中世）の学習が始まっています。これまで見落としていたこと、新たな視点で、そして各自が調べた発表の場になるような魅力的な学習会にしていきます。

そこで、最近の学習会（第4展示室から）の様子を紹介します。皆さん、妖怪の世界は、ご覧になりましたか。友の会の会員であれば先刻ご存知ですよ。失礼しました。それこそ、魑魅魍魎（ちみもうりょう・化け物）の異形の輩が跋扈（ばっこ・我が物顔）していますが、この妖怪の世界一つをとっても、現代に通じるとても奥の深いテーマです。その中に河童像が展示されています。この河童が、学習会での私の発表テーマでした。関心の始まりは、岩手県遠野市のカッパ淵を訪れてから郷里の河童伝説等が懐かしく蘇ってきたことでした。河童の由来や各地の伝承を調べるにしたがって、河童が日本の文化の深層にまで及んでいることがわかってきました。なにしろ、「河童とは何か」をテーマに歴博フォーラム（2012年7月）も開催されたそうです。私の発表の内容は、字数の関係でとてもお伝えできませんが、河童をテーマにすることによって、わが学習会で新たな発見がありました。学習会のメンバーの中に河童連邦共和国（大統領府・台東区西浅草）の国民がいたことです。また、インターネットを使って集い、研究する河童大学まであるとのこと。

“河童、まさに恐るべし”

歴博の展示物一つ一つに新たな発見やドラマが潜んでいるのですから、この学習会の魅力は尽きることがないようです。

二例目は、めぐる時間と祭りから、「西表島の節祭（シチ）」の話です。日本の最西端近くのこの島は、動植物の宝庫として国立公園に、また、豊穡を祈る節祭も民俗重要無形文化財に指定されています。興味が尽きない自然と芸能は、「日本人はどこからきたのか」のような誘いを感じてやみません。



西表島の節祭

節祭は島の西部、祖納（そない）や干立（ほしたて）に少なくとも三百年以上前から行われてきた祭で、旧暦9月の、収穫と次の田植えの間にされる新年の豊穡の祈願祭です。

幸福な年を意味する弥勒世（ミリクユ）たる世果報（ユガフ）を海のかなたの異郷ニライカナイより迎え、新しい年の稲の稔りを祈願する「世乞（ユーク）い」行事として、ハーリー船（爬龍船）による船漕ぎ競争や、ミリク（弥勒）への奉納の歌舞や滑稽な芸が行われます。

私の旅行した時期と節祭の日はずれていたのですが、地区対抗の船漕ぎ競争が近くで行われていたり、まるまぼんさん島、祖納の御嶽（うがん）や集落などをめぐっていると、当日浜で行われる節祭の様子が目に浮かんでくるようでした。